

みんなの力を結集して 未来へ誇れる白河を ともに創っていきましよう



白河市長 鈴木和夫

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。大震災から二回目の新年を迎えましたが、被災され、未だ避難生活を余儀なくされている皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。被害のあった公共施設は、小峰城跡の石垣崩落など一部の箇所を除きおおむね元に戻りました。一方、懸案となっていた除染は、学校施設や都市公園などですでに実施してきましたが、地域のご理解をいただき仮置き場も決定してきたことから、使用開始に向けた作業を加速させ、放射線量の比較的高い地域から順次その低減を図ってまいります。また、今春にはホールボデー

カウンタを導入し検査体制を充実させるなど、健康管理にも取り組んでまいります。これからの未来をどうつづけていくかも重要です。年内には市民文化会館の建設に着手、完成の折には小峰城跡も含め白河駅周辺が歴史や文化の交流拠点として一体的に整備され、図書館との相乗効果によりたくさんの人でにぎわうことを期待しています。生活を安定させ、雇用をうむ産業振興のうち企業誘致は、昨年稼働したヤフー白河データセンターがすでに二棟目を増設していて、三菱ガス化学の土地造成工事も順調です。あわせて改良が進む国道294

号につながる国道4号4車線化も形が見えてきました。また、次代を担う人材を育てるため学校改築を計画的に進めるなど教育環境の整備を図り、さらには、子育て支援や高齢者サービスなどにもきめ細かに対応してまいります。日本は世界に例を見ない少子高齢社会になり、税負担など従来の利益配分から不利益やリスクを分担し合う時代に入りました。こうした厳しいときこそ知恵と工夫が必要です。協働の理念のもと、みんなの力を結集して、震災からの本格的な復興を果たし、未来へ誇れる白河をともに創っていきましよう。

平成25年の年頭に際し謹んでご挨拶を申し上げます。東日本大震災から間もなく1年10月が過ぎようとしています。被災され今なお避難生活を強いられている皆さまに対し、改めてお見舞い申し上げます。さて、市は議会の協力の下、昨年初めに策定した「白河市震災復興計画」および「白河市除染計画」を基本として、「白河から光を」を合言葉に市民・企業・団体などの皆さまと一体となって復興への努力を進めてまいりました。その結果、民間の住居・施設および公共施設の復旧はほぼ完了しております。企業誘致で

は、三菱ガス化学などの大企業の誘致を積極的に展開され、将来の人口増加や市内への定住人口の増加対策なども見据えた考えの下に前述しました様々な計画を推進しております。あわせて、国道4号の4車線化などとともに、北部地域はその様相を一変しようとしています。さらに、新しい市民会館建設事業も平成27年度の完成を目指し順調に進んでおり、除染も大信地域から順次行われています。

また、昨年には不十分なながらも東電からの賠償金と県給付金の支給が実行され、12月には年年初から8月末までの東電賠償金として県南地域住民に対し追加支給することが発表されました。未解決の賠償はこれまで通り粛々と要求できるよう、議会と市は全力で支援体制をとってまいります。市議会は皆さまの最も身近にいて、ともに泣き・笑い・喜び合う存在です。もともとっと皆さまに市議会の活動が見える身近な議会となるために、議会内に新たな調査検討を行う任意の委員会を立ち上げました。執行部とともに市民の皆さまと市議会が手を携え、世界の人々から共感がよせられる本市の再生を目指し、うつくしい白河、うつくしい福島を取り戻すために力を合わせ前進ましよう。

白河市議会議長 高橋光雄

世界の人々から 共感がよせられる 再生を目指ましよう

